

# 認定こども園ともいき 令和5年度自己評価結果公表シート

## 1 本園の教育目標

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 心豊かな子ども<br>2 明るい子ども<br>3 進んで行動する子ども |
|---------------------------------------|

## 2 本年度、重点的に取り組む項目

|   |
|---|
| 認定こども園ともいきの求める職員の人物像は、次の3つである。<br>(1) 和顔愛語 すてきな笑顔と気持ちのいい挨拶をする人<br>(2) 同事協力 職場の人と息を合わせて仕事をする人<br>(3) 智慧希望 広い視野で見、考え、簡潔に表現できる人<br>これらを実現するために、職員が組織として協力して業務にあたることができるよう風土や仕組みを整えていくことを重点事項とする。 |
|---|

## 3 評価項目の達成及び取り組み状況

|  |   |
|--|---|
| 認定こども園教育保育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・方針に従い指導計画を作成する。 | 教育・保育要領と園児の姿から保育計画を立てている。定型の行事については計画との関連をもっと結び付けられるとよい。  |
| 教育の質を高めるため、研修を充実させる。                       | 研修会を受講する機会は確保されている。利用者の安全についての学びは継続的になされている。園外の研修会も増えているので参加をしていきたい。また、園内での指導体制や学び合いの機会は今後確立していく必要がある。                        |
| 園児の良さを認め評価する                               | 園児の個性や特性、背景があることは理解したうえで関わる事ができている。そこから更に、クラス運営の計画や個々の対応に臨機応変に活かすような教育・保育の在り方は今後の課題。  |
| 園の情報を発信する                                  | 園の様子発信は細やかにできた。保護者だけでなく園関係者や地域の方々へも園を知っていただけるよう広報を続けている。保護者への発信はアプリをはじめとしたデジタルでの手法が定着してきたが、わかりやすさや利便性にはまだ改良の余地がある。            |
| 園環境を整える                                    | ランチルーム整備の取り組みで、生活環境と利便性の向上が図られたことが大きい。またバスの安全装置の設置や保育室出入口の改修で安全面も向上した。その他ハード面で老朽化した部分の修繕や機能向上ができた。ただし老朽化への対応は他にも多控えており、今後の課題。 |

#### 4 認定こども園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

毎年の重点である笑顔と挨拶は定着してきている。利用者の意見等を受けながら常に向上を意識していきたい。

保護者の利便性の向上として、オムツ処分料の無料化、3歳以上児の食事用品持参を不要にしたことは大きい。職員の業務の流れを大きく変えることにはなったが、運営方法や生活スタイルを見直すことに対応できる組織風土が出来つつある。今後もより柔軟な運営を目指したい。

老朽化した設備が多くなってきていることもあり、改善すべき点はまだ多い。効果的に取り組んでいく。

#### 5 今後取り組むべき課題

|                     |   |
|---------------------|---|
| 教育保育施設としての専門的な技術の向上 | 内部指導體制、利用者への共感や助言など、専門的な施設としての技術の向上。                |
| わかりやすい発信            | 利用者が必要な情報をわかりやすく伝える方法を探る。保育の様子や子育てに役立つ情報を、理解しやすい形で。 |
| 施設の修繕や改修            | 安全性を第一に、老朽化への対応と利便性の向上。                             |

#### 6 認定こども園関係者の評価

評価した点として……

職員研修が手厚く行われていること、ブログやれんらくアプリ等での情報提供、園庭や園舎の環境整備、など。

検討事項として……

園外の研修参加、れんらくアプリのより分かりやすい使い方、細やかな意見対応、放課後児童クラブ開設への取り組み、今後の経営、など。

より利用しやすい施設となって利用者が定着し、存続し続けられる園運営を目指すこと。